

# Naoya Hara 羽野直也

interview

## 来年にむけて、納得できるレースをする。



昨年7月に児島オーシャンカップでSG初優勝を果たした。福岡支部の若き有望株が、今年12月に福岡で開催されるGI福岡チャンピオンカップへの意気込み、将来、プライベートについて熱く語った。

**ボートレーサーになるきっかけは？**  
高校生の時に家族でボートレースを見に行ったのがきっかけです。場所は福岡でした。かっこいい、なつてみたいと思いました。最初は漠然としていましたが、卒業してすぐに、やまと学校(現ボートレーサー養成所)の試験を受けました。

**高校で同じ野球部だった野見山拓己選手(124期)について**  
した後でした。そこまで、すごい方とは知らなかったです。頑張っていますね。負けず嫌いなので、強くなると思います。たまに一緒に会う機会はないですが…。

**ボートレーサーになって大変だったこと**  
厳しいです。頑張り続けることは大変でした。継続することが僕の中ではきついこともあり、シンプルですが同じことを繰り返さないといけないです。調整もそうです。オフでも(頭の中から)離れない部分があったりします。

**ボートレーサーになって大変だったこと**  
厳しいです。頑張り続けることは大変でした。継続することが僕の中ではきついこともあり、シンプルですが同じことを繰り返さないといけないです。調整もそうです。オフでも(頭の中から)離れない部分があったりします。

**今後の目標は？**  
まず納得のレースです。SG、GIというよりも、納得できることです。今年はまだいいレースができていないので、来年へ向けて、という意味で納得のレースにしたいです。やっぱり自分次第だと思います。自分がどこまでやりたいのか、を求めることで変われると思っています。今は来年にどうつなげるかというところから考えています。

### 選手DATA

**得意な水面** 若松・平和島  
正直、「ここが得意」というところがないです。相性が最近いいと言っても、過去は良くなかったり、逆に昔良かったのに最近はいいというのがあります。最近では平和島がいい印象があります。若松もそうです。調整が合っているとは言えないけど、悪い節がないです。いい時のイメージに合わせて、体が勝手に動いてくれます。悪い時でも大敗が少ないです。

**苦手な水面** 江戸川・びわこ  
江戸川は大嫌いです。あと、びわこは勝てるイメージがないです。一度勝つてしまえば、勝てるイメージに当てはめることができます。なにが勝ち筋があればいいのですが、江戸川もびわこも現時点ではないです。

### 見てほしいコース

**4、6コース**  
自在なので、どこでも、というのがあります。いいときは、どこでも勝てるし、悪いときは大敗します。楽なコースは4、6コースですね。気持ちの分、戦略の分もあります。インだと「勝たないといけない」という気持ちがあります。デレツとしているとダメですね。インも勝てる時はいいですけどね。

**profile**  
はの なおや 羽野直也 114期  
福岡支部 飯塚市出身 1995年3月29日生まれ 身長:167cm 体重:55kg

- 2014年5月 若松一般戦デビュー
- 2015年4月 若松一般戦でデビュー初勝利
- 2016年1月 平和島タイトル戦でデビュー初優勝
- 2016年7月 芦屋一般戦でデビュー初優勝
- 2017年10月 大村GI周年で記念初優勝
- 2023年7月 児島オーシャンカップでSG初優勝
- 通算優出回数79回
- 通算優勝回数23回(SG・1回、GI・4回を含む)
- ※データは2024年10月18日現在

### これがわたしの勝負メシ 寿司

休みの間に1度は食べます。お寿司屋さんに行くことは少なく、テイクアウトが多いです。好きなネタはたくさんあって、赤身よりも油が乗ったものが好きです。白身はさっぱりとしたポン酢で食べることもあります。カワハギが好きで寿司でも刺身でも食べます。穴子・サーモン・マグロもよく食べます。

Instagram @naoyan\_114  
X @5RpHBeCn06zY2N

### BBP356号編集部より

ご多忙の中、朝から集合してくださいました羽野選手。爽やかなのはきゅんスマイルで現場が一気に癒し空間に！ジムでのYouTube撮影は、かっこいい羽野選手です！ギャップが魅力的！



**編集部注目ポイント!**  
**「手」**  
歴代ボートビートプレスでレーサーの手に注目した号がありました。ペラをたたいたり、ハンドルを握ったり…まさに職人的なレーサーの手。内に秘めた情熱や漢気を羽野選手の力強いこぶしからも感じました。

YouTube動画はこちらから

えいむ eim. @eimsinger  
きほ kiho @angel\_usol  
まなみ まなみなみ(元LinQ) @manami\_guitars  
みゆき 今井美由紀 @miuchan1114  
ゆき はがゆき @hagayuki328

- Q 動物占いは何ですか？  
きどらないクロヒョウ
- Q MBTI(性格診断テスト)は何ですか？  
仲介者だったと思います
- Q 好きな食べ物は？  
だいたい何でも好きです！(しいていばお寿司)

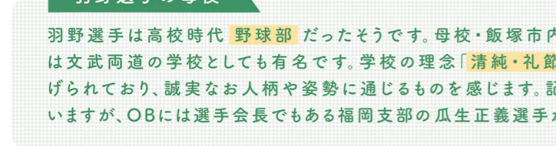


Q どのような子供時代でしたか？  
マイペースによく動き回る子供でした

羽野選手の母校  
羽野選手は高校時代 野球部 だったそうです。母校・飯塚市内にある嘉穂東高校は文武両道の学校としても有名です。学校の理念「清純・礼節・理智・勇気」が掲げられており、誠実なお人柄や姿勢に通じるものを感じます。記者取材で語っていますが、OBには選手会長でもある福岡支部の瓜生正義選手がいらっしゃいます。

### ボートレース福岡女子部 with ボートレースおじさん 質問コーナー

- Q 趣味や好きなことは？  
サーフィンとゴルフ 自然が好きです！
- Q 理想的な休日の過ごし方は？  
“休みの日を使いきる”のが理想ですね…
- Q どのような子供時代でしたか？  
マイペースによく動き回る子供でした



ボレ女 profile Instagram アカウント  
えいむ eim. @eimsinger 熊本県出身のシンガーソングライター。ユニット「merry empty(めりーえんぶてい)」としても活動中。  
きほ kiho @angel\_usol eim.とともにユニット「merry empty(めりーえんぶてい)」として活動中。  
まなみ まなみなみ(元LinQ) @manami\_guitars 福岡のアイドルグループ・LinQ1期生として2018年まで活動。現在はタレント事務所「サクラウサギエージェンツ」を立ち上げ、活動中。  
みゆき 今井美由紀 @miuchan1114 撮影モデルをきっかけに、現在はボートレーサーモデルとして福岡で活動中。  
ゆき はがゆき @hagayuki328 佐賀県唐津市出身、マルチタレント。シンガーソングライター・MC・レポーター・モデルなど幅広く色んな分野で活動中。

## 30th Boat Beat Press ファン感謝企画

### バックナンバーを振り返る!

#### 第4弾 時代の変化 ~ プロペラ制度と新しい時代のボートレース

1990年代の誌面で「プロペラ特集号」がありました。当時は「持ちペラ制度」が存在し、選手が自前ペラを調整工夫しレース場に持ち込む形式でした。漫画「モンキーターン」でも詳しく描かれているシーンがあります。プロペラによってモーター性能も変わり、勝負にも大きく影響したのです。バーナーで熱しハンマーで叩き、削る・叩く・のぼすなど…、選手は休日でも鍛冶屋さんのような作業を繰り返し、プロペラ研究に取り組んでいました。各支部には「ペラグループ」なる勉強会が存在し、共同でデータ分析をしながら情報収集や分担作業をして、より良いプロペラを追求しつづける文化がありました。

**持ちペラ制度廃止**  
2012年4月に廃止された「持ちペラ制度」。その理由は、「選手の持ちペラ制度は選手のプロペラ修整技術向上により迫力あるレースの具現化に寄与した反面、モーターと選手の持ちペラがどのようにマッチングするかが複雑で推理が難しいという声も多くあった。」(日本モーターボート競走会) 出走表の「モーター勝率」は皆さんチェックすると思いますが、レース予想がし難く、公平さがなくなる点なども理由とされています。

**オーナーペラ制度**  
現在は、各場が準備したモーターとプロペラを使用する「オーナーペラ制度」に移行。選手が自前ペラを持ち込むことはなく、「モーターとペラをセットで選手に渡す」、「ペラ調整は開催期間のみ」といったルールです。現在は硬質樹脂ハンマーのみ使用可能で、過去のような金属製は使用できません。休日返上、上下関係も強いプロペラグループ活動を優先ではなく、休日は選手個人の趣味や家族との時間を確保するのもそれぞれの選択の自由があり、オン・オフわけて仕事にもとりくみやすくなり、ワークライフバランスにもつながることになっています。

今回の羽野選手の取材でも、羽野選手が「過去」や「周囲の選手と同じ」ことにとらわれず、自分にあった選択で自分らしい心身の調整やレースへの臨み方をされているのだなという点が非常に印象に残りました。本誌30周年を振り返ると、時代の変化とともに価値観の変化もあり、働き方も生き方もウェルビーイング時代へとシフトしてきている現代のレース場やレーサーの在り方を改めて考えさせられました。

創刊号 → 「ボートレース福岡」は街中にある唯一のレース場。「福岡に住んでいる人は幸せである。中でも天神に住んでいる人は大の幸せものであると私は思う。こんな近くに競艇場があるなんて全国どこにもない。」と、蛭子氏らしいコメント。

← 平成7年3月31日発行号  
物事の最後は、次の楽しみや期待感があれば、悲しいというより嬉しいのだ。6日間のレース期間中、すべて(72レース)の舟券を購入し、ラスト12Rレース時の気分の高揚を画いています。「終わった後に違った楽しさがやってくる、という期待感がなければ、それは嬉しくない。逆に言えば、終わることは次に何が来るかという楽しさには私はいつも期待してることなのである。」

### Present 読者プレゼント

いずれかのグッズが計6名様に当たる!!

羽野直也選手のサイン入り

オリジナルTシャツ 1名様

オリジナルQUOカード 5名様

応募はこちら